

開講年度	令和3年度	開講期間	通年
科目名	整形外科科学		
担当教員	江口 昌充		
学年	2年	学科	作業・理学
単位数	4単位	時間数	60(30)時間
学習目標	臨床で多くみられる疾患を中心に、整形外科疾患の発生機序・診断・治療の基礎的な知識を理解する。また、運動器の理学療法の基盤となるようにそれぞれの疾患の知識を定着させる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・骨、関節の構造、病態生理 2. 整形外科診断学(X線、MRI) 3. 外傷総論、組織の修復過程 4. 肩関節疾患① 5. 肩関節疾患② 6. 肩関節疾患③ 7. 肘関節疾患① 8. 肘関節疾患② 9. 肘関節疾患③ 10. 手関節疾患① 11. 手関節疾患② 12. 手関節疾患③ 13. 末梢神経障害(上肢①) 14. 末梢神経障害(上肢②) 15. 慢性関節疾患(退行性・代謝性) 		
教科書	『標準整形外科科学』【編】中村利孝（医学書院）		
参考書	『整形外科学テキスト』【著】高橋邦泰、芳賀信彦（南光堂） 『整形外科手術後療法ハンドブック』【著】片田重彦（南光堂） 『STEP整形外科(STEP Series)』【監】高橋正明（海馬書店）		
評価方法	筆記試験・出席状況		
備考	範囲が広いため、予習・復習を行ってください。		

開講年度	令和3年度	開講期間	通年
科目名	神経内科学		
担当教員	三吉 舞子		
学年	2年	学科	作業・理学
単位数	4単位	時間数	60(30)時間
学習目標	臨床で遭遇する神経疾患の原因・病態生理・神経症候・検査について学ぶ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総論 2. 頭痛、てんかん① 3. 頭痛、てんかん② 4. 感染性疾患① 5. 感染性疾患② 6. 脱髄疾患① 7. 脱髄疾患② 8. 筋萎縮性側索硬化症① 9. 筋萎縮性側索硬化症② 10. パーキンソン病① 11. パーキンソン病② 12. 脊髄小脳変性症① 13. 脊髄小脳変性症② 14. 末梢神経障害 15. まとめ 		
教科書	『標準神経病学』【編】栗原照幸 他（医学書院）		
参考書	『理学療法テキスト神経障害理学療法学Ⅱ（15レクチャーシリーズ）』【編】石川朗（中山書店） 『系統理学療法学 神経障害系理学療法学』【著】丸山仁司（医歯薬出版）		
評価方法	筆記試験		
備考			

開講年度	令和3年度	開講期間	前期
科目名	精神医学		
担当教員	遠藤 健一郎		
学年	2年	学科	作業・理学
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標	【疾患の分類と診断基準】、【精神障害における症状】、【補助診断】、【精神障害各論】、【精神科医療の法律】、【精神科包括治療】の六つの柱で構成される系統的な講義により、将来、精神科専門領域で仕事をすることは限らない理学療法学科や作業療法学科の学生が、臨床実践で必要とされる精神医学的な基礎知識を身につける。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 【疾患の分類と診断基準】、【精神障害における症状】精神症状① 2. 【精神障害における症状】精神症状② 3. 【精神障害における症状】精神状態および高次脳機能障害、【補助診断】 4. 【精神障害各論】症状性を含む器質性精神障害① 5. 【精神障害各論】症状性を含む器質性精神障害② 6. 【精神障害各論】精神作用物質による精神および行動の障害 7. 【精神障害各論】統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害 8. 【精神障害各論】気分(感情)障害 9. 【精神障害各論】神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 10. 【精神障害各論】生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 11. 【精神障害各論】成人のパーソナリティおよび行動の障害 12. 【精神障害各論】ライフサイクルにおける精神医学① 13. 【精神障害各論】ライフサイクルにおける精神医学②、【精神科医療の法律】 14. 【精神科包括治療】身体的治療 15. 【精神科包括治療】心理社会的治療、リエゾン精神医学 		
教科書	『学生のための精神医学』 【著者】太田保之 (医歯薬出版)		
参考書			
評価方法	期末試験		
備考			

開講年度	令和3年度	開講期間	前期
科目名	臨床内科学		
担当教員	藤井 昌江		
学年	2年	学科	作業・理学
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標	病気の病因・経過・転帰について学ぶ		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第3章 症候学 2. 第12章 アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全 3. 第13章 感染症 4. 第9章 代謝性疾患 5. 先天性異常と遺伝子異常 6. 腫瘍 7. 第4章 循環器疾患① 8. 循環器疾患② 9. 第5章 呼吸器疾患 10. 第6章 消化器疾患 11. 第7章 肝胆膵疾患 12. 第8章 血液・造血器疾患 13. 第10章 内分泌疾患 14. 第11章 腎・泌尿器疾患 15. 老化と死、その他 16. 栄養学概論 17. 薬理学概論 18. 救急救命法 		
教科書	『PTOT標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』 【監】奈良勲 他（医学書院）		
参考書	『系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進1』【著】大橋健一（医学書院） 『PTOT基礎から学ぶ内科学ノート』【編】中島雅美 他（医歯薬出版） 『なるほどなっとく！病理学: 病態形成の基本的な仕組み』【著】小林正伸		
評価方法	期末試験		
備考			

開講年度	令和3年度	開講期間	通年
科目名	基礎理学療法学Ⅱ		
担当教員	植田 一輝		
学年	2年	学科	理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	理学療法の治療技術である運動療法を学ぶに当たり、評価及び治療の基礎的知識を身につける。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動療法の基礎 2. 触診(上肢) 3. 触診(下肢) 4. 関節可動域の改善① 5. 関節可動域の改善② 6. 関節可動域の改善③ 7. ストレッチング① 8. ストレッチング② 9. ストレッチング③ 10. 筋力の改善① 11. 筋力の改善② 12. 持久力の改善 13. 姿勢障害に対する運動療法① 14. 姿勢障害に対する運動療法② 15. 運動学習 		
教科書	『運動療法 障害別アプローチの理論と実際』【著】市橋則明 (文光堂)		
参考書	『運動療法のための機能解剖学的触診術 上肢』【監】青木隆明 (メジカルビュー社) 『運動療法のための機能解剖学的触診術 下肢・体幹』【監】青木隆明 (メジカルビュー社) 『運動器療法学』【編】柳原健 (金原出版)		
評価方法	筆記試験・出席状況		
備考	学習したことは復習し、自分なりに整理しましょう。 各運動療法の講義で国家試験の過去問を取り入れていきます。		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年																														
科目名	理学療法評価学Ⅱ																																
担当教員	植田 一輝																																
学年	2年	学科	理学																														
単位数	10単位	時間数	300(60)時間																														
学習目標	理学療法評価についての臨床的理解を深める。 1年次に履修した人体の構造と機能をもとに評価法を理解し、評価技術を習得する。																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. ROM-T総論</td> <td>16. ROM-T 上肢(状況に応じた測定の展開)</td> </tr> <tr> <td>2. ROM-T 下肢(状況に応じた測定の展開)</td> <td>17. ROM-T実技テスト(上肢)</td> </tr> <tr> <td>3. ROM-T 下肢(状況に応じた測定の展開)</td> <td>18. ROM-T実技テスト(上肢)</td> </tr> <tr> <td>4. ROM-T 下肢(状況に応じた測定の展開)</td> <td>19. フィードバック・上肢復習</td> </tr> <tr> <td>5. ROM-T 下肢(状況に応じた測定の展開)</td> <td>20. フィードバック・上肢復習</td> </tr> <tr> <td>6. ROM-T 下肢(状況に応じた測定の展開)</td> <td>21. MMT総論</td> </tr> <tr> <td>7. ROM-T実技テスト(下肢)</td> <td>22. MMT肩関節①</td> </tr> <tr> <td>8. ROM-T実技テスト(下肢)</td> <td>23. MMT肩関節②</td> </tr> <tr> <td>9. フィードバック・下肢復習</td> <td>24. MMT肘関節・手関節</td> </tr> <tr> <td>10. フィードバック・下肢復習</td> <td>25. MMT肩甲骨</td> </tr> <tr> <td>11. ROM-T 頸部・体幹(状況に応じた測定の展開)</td> <td>26. MMT上肢まとめ</td> </tr> <tr> <td>12. ROM-T 上肢(状況に応じた測定の展開)</td> <td>27. MMT実技テスト(上肢)</td> </tr> <tr> <td>13. ROM-T 上肢(状況に応じた測定の展開)</td> <td>28. MMT実技テスト(上肢)</td> </tr> <tr> <td>14. ROM-T 上肢(状況に応じた測定の展開)</td> <td>29. フィードバック・上肢復習</td> </tr> <tr> <td>15. ROM-T 上肢(状況に応じた測定の展開)</td> <td>30. フィードバック・上肢復習</td> </tr> </table>			1. ROM-T総論	16. ROM-T 上肢(状況に応じた測定の展開)	2. ROM-T 下肢(状況に応じた測定の展開)	17. ROM-T実技テスト(上肢)	3. ROM-T 下肢(状況に応じた測定の展開)	18. ROM-T実技テスト(上肢)	4. ROM-T 下肢(状況に応じた測定の展開)	19. フィードバック・上肢復習	5. ROM-T 下肢(状況に応じた測定の展開)	20. フィードバック・上肢復習	6. ROM-T 下肢(状況に応じた測定の展開)	21. MMT総論	7. ROM-T実技テスト(下肢)	22. MMT肩関節①	8. ROM-T実技テスト(下肢)	23. MMT肩関節②	9. フィードバック・下肢復習	24. MMT肘関節・手関節	10. フィードバック・下肢復習	25. MMT肩甲骨	11. ROM-T 頸部・体幹(状況に応じた測定の展開)	26. MMT上肢まとめ	12. ROM-T 上肢(状況に応じた測定の展開)	27. MMT実技テスト(上肢)	13. ROM-T 上肢(状況に応じた測定の展開)	28. MMT実技テスト(上肢)	14. ROM-T 上肢(状況に応じた測定の展開)	29. フィードバック・上肢復習	15. ROM-T 上肢(状況に応じた測定の展開)	30. フィードバック・上肢復習
1. ROM-T総論	16. ROM-T 上肢(状況に応じた測定の展開)																																
2. ROM-T 下肢(状況に応じた測定の展開)	17. ROM-T実技テスト(上肢)																																
3. ROM-T 下肢(状況に応じた測定の展開)	18. ROM-T実技テスト(上肢)																																
4. ROM-T 下肢(状況に応じた測定の展開)	19. フィードバック・上肢復習																																
5. ROM-T 下肢(状況に応じた測定の展開)	20. フィードバック・上肢復習																																
6. ROM-T 下肢(状況に応じた測定の展開)	21. MMT総論																																
7. ROM-T実技テスト(下肢)	22. MMT肩関節①																																
8. ROM-T実技テスト(下肢)	23. MMT肩関節②																																
9. フィードバック・下肢復習	24. MMT肘関節・手関節																																
10. フィードバック・下肢復習	25. MMT肩甲骨																																
11. ROM-T 頸部・体幹(状況に応じた測定の展開)	26. MMT上肢まとめ																																
12. ROM-T 上肢(状況に応じた測定の展開)	27. MMT実技テスト(上肢)																																
13. ROM-T 上肢(状況に応じた測定の展開)	28. MMT実技テスト(上肢)																																
14. ROM-T 上肢(状況に応じた測定の展開)	29. フィードバック・上肢復習																																
15. ROM-T 上肢(状況に応じた測定の展開)	30. フィードバック・上肢復習																																
教科書	『理学療法評価学』【著】松澤正（金原出版） 『理学療法検査・測定ガイド』【編】奈良勲（分光堂） 『新・徒手筋力検査法』【著】Helen J. Hislop/Jacqueline Montgomery（協同医書出版）																																
参考書	適宜紹介する。																																
評価方法	実技試験																																
備考	評価器具の購入(プラスチックゴニオメーター、打診器、メジャー)																																

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	理学療法評価学Ⅱ		
担当教員	植田 一輝		
学年	2年	学科	理学
単位数	10単位	時間数	300(30)時間
学習目標	理学療法評価についての臨床的理解を深める。 1年次に履修した人体の構造と機能をもとに評価法を理解し、評価技術を習得する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. MMT総論 2. MMT股関節① 3. MMT股関節② 4. MMT股関節③ 5. MMT股関節④ 6. MMT膝関節・足関節① 7. MMT膝関節・足関節② 8. MMT膝関節・足関節③ 9. MMT肩関節① 10. MMT肩関節② 11. MMT肩関節③ 12. MMT肩関節④ 13. MMTMMT肘関節・手関節① 14. MMT肘関節・手関節② 15. MMT肘関節・手関節③ 		
教科書	『理学療法評価学』【著】松澤正（金原出版） 『理学療法検査・測定ガイド』【編】奈良勲（分光堂） 『新・徒手筋力検査法』【著】Helen J. Hislop/Jacqueline Montgomery（協同医書出版）		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	実技試験		
備考	評価器具の購入(プラスチックゴニオメーター、打診器、メジャー)		

開講年度	令和3年度	開講期間	通年
科目名	理学療法評価学Ⅱ		
担当教員	村上 彰宏		
学年	2年	学科	理学
単位数	10単位	時間数	300(30)時間
学習目標	理学療法評価についての臨床的理解を深める。 1年次に履修した人体の構造と機能をもとに評価法を理解し、評価技術を習得する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ROM-T総論 2. ROM-T(上肢①) 3. ROM-T(上肢②) 4. ROM-T(上肢③) 5. ROM-T(上肢模擬テスト) 6. ROM-T(下肢①) 7. ROM-T(下肢②) 8. ROM-T(下肢③) 9. ROM-T(下肢模擬テスト) 10. ROM-T(頸部・体幹①) 11. ROM-T(頸部・体幹②) 12. ROM-T(頸部・体幹模擬テスト) 13. 疾患に応じた測定① 14. 疾患に応じた測定② 15. まとめ 		
教科書	『理学療法評価学』【著】松澤正（金原出版） 『理学療法検査・測定ガイド』【編】奈良勲（分光堂） 『新・徒手筋力検査法』【著】Helen J. Hislop/Jacqueline Montgomery（協同医書出版）		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	実技試験		
備考	評価器具の購入（プラスチックゴニオメーター、打診器、メジャー） この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 理学療法士として総合病院のスポーツリハを中心にリハビリテーション業務に携わる（25年間）。		

開講年度	令和3年度	開講期間	通年
科目名	理学療法評価評価学Ⅱ		
担当教員	村上 彰宏		
学年	2年	学科	理学
単位数	10単位	時間数	300(30)時間
学習目標	国家試験における理学療法評価問題についての理解を深める。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験対策① 2. 国家試験対策② 3. 国家試験対策③ 4. 国家試験対策④ 5. 国家試験対策⑤ 6. 国家試験対策⑥ 7. 国家試験対策⑦ 8. 国家試験対策⑧ 9. 国家試験対策⑨ 10. 国家試験対策⑩ 11. 国家試験対策⑪ 12. 国家試験対策⑫ 13. 国家試験対策⑬ 14. 国家試験対策⑭ 15. まとめ 		
教科書	『理学療法評価学』【著】松澤正（金原出版） 『理学療法検査・測定ガイド』【編】奈良勲（分光堂） 『新・徒手筋力検査法』【著】Helen J. Hislop/Jacqueline Montgomery（協同医書出版）		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	実技試験		
備考	この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 理学療法士として総合病院のスポーツリハを中心にリハビリテーション業務に携わる（25年間）。		

開講年度	令和3年度	開講期間	通年
科目名	脳血管障害理学療法		
担当教員	伊吹 太郎		
学年	2年	学科	理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	<p>脳血管障害の症状とその評価、リハビリテーションについて、座学中心に講義を進めていく。加えて、外傷性脳損傷についても学ぶ。 目標:脳血管障害の症状を理解する。 目標:脳血管障害のリハビリテーションについて理解する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 脳血管障害の分類 2. 脳血管障害の症状① 3. 脳血管障害の症状② 4. 脳血管障害の症状③ 5. 脳血管障害の画像所見の見方① 6. 脳血管障害の画像所見の見方② 7. 片麻痺運動機能検査(Brunnstrom test) 8. 片麻痺運動機能検査(上田式) 9. 高次脳機能障害(失語症) 10. 高次脳機能障害(失行・失認) 11. 高次脳機能障害の評価(半側空間失認について) 12. 脳血管障害の急性期管理と急性期リハビリテーション 13. 脳の可塑性とリハビリテーション 14. 外傷性脳損傷 15. まとめ、国家試験対策 		
教科書	<p>『脳卒中理学療法の理論と技術』【編】原寛美・吉尾雅春 (メジカルビュー社) 『脳卒中に対する標準的理学療法介入 何を考え、どう進めるか?』【編】潮見泰蔵 (文光堂)</p>		
参考書	<p>『脳卒中・片麻痺理学療法マニュアル』【編】長澤弘 (文光堂) 『病気がみえる<vol.7>脳・神経』【著】医療情報科学研究所 (メディックメディア) 『ステップス・トゥ・フォロー』【著】Patricia M. Davies (シュプリンガーフェアラーク東京) 『脳卒中最前線—急性期の診断からリハビリテーションまで』【編】福井囿彦 (医歯薬出版) 『リハ実践テクニク 脳卒中』【編】千田富義 他 (MEDICAL VIEW) 『実践MOOK 理学療法プラクティス これだけは知っておきたい脳卒中の障害・病態とその理学療法アプローチ』【編】嶋田智明 他 (文光堂)</p>		
評価方法	出席状況、授業態度、筆記試験		
備考			

開講年度	令和3年度	開講期間	通年
科目名	運動器障害理学療法		
担当教員	江口 昌充		
学年	2年	学科	理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	運動器障害理学療法における臨床遭遇率の高い疾患、国家試験出題頻度の高い疾患と共に運動器基礎を学ぶ事で臨床応用力を培う事を目標とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・総論 2. 運動療法 3. 肩関節解剖、運動学 4. 肩関節整形外科的検査 5. 上腕骨近位端骨折 6. 肩関節周囲炎 7. 肘関節解剖学、運動学 8. 肘関節整形外科的検査 9. 内側上顆炎 10. 手関節解剖学、運動学 11. 手関節整形外科的検査 12. 橈骨遠位端骨折 13. 胸郭出口症候群 14. 運動連鎖、バランス 15. まとめ 		
教科書	『ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション』【監修】神野哲也（羊土社）		
参考書	適宜		
評価方法	出席日数、出席態度、試験結果		
備考	解剖学、運動学、整形外科学、評価学等の理解が必要となり運動器障害理学療法の実技を行う授業になります。その為、自己復習をする事で授業にのぞんで下さい。		

開講年度	令和3年度	開講期間	通年																														
科目名	発達障害理学療法																																
担当教員	伊吹 太郎																																
学年	2年	学科	理学																														
単位数	4単位	時間数	120(60)時間																														
学習目標	人間の誕生から死に至るまでの生涯を発達という視点からとらえ、身体・心理両面における人間発達に関する基礎知識を身につける。 正常小児の成長・発達と小児の疾病における特性を概説し、作業・理学療法士として小児の障害にも専門的に対応できる能力を習得する。																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 人間発達とは</td> <td>16. 小児の成長・発育と発達</td> </tr> <tr> <td>2. 発達理論(1)</td> <td>17. 小児の神経系・感覚系・運動系の発達</td> </tr> <tr> <td>3. 発達理論(2)</td> <td>18. 新生児・未熟児疾患</td> </tr> <tr> <td>4. 個体と環境</td> <td>19. 先天異常と遺伝病</td> </tr> <tr> <td>5. 出生前発達</td> <td>20. 神経・筋・骨系疾患</td> </tr> <tr> <td>6. 乳児・幼児前期</td> <td>21. 循環器疾患、呼吸器疾患</td> </tr> <tr> <td>7. 幼児後期</td> <td>22. 感染症</td> </tr> <tr> <td>8. 学童期(1)</td> <td>23. 消化器疾患、内分泌・代謝疾患</td> </tr> <tr> <td>9. 学童期(2)</td> <td>24. 血液疾患、免疫・アレルギー疾患、膠原病</td> </tr> <tr> <td>10. 青年期(1)</td> <td>25. 腎・泌尿器系、生殖器疾患、腫瘍性疾患、心身症、神経症</td> </tr> <tr> <td>11. 青年期(2)</td> <td>26. 眼科・耳鼻科的疾患</td> </tr> <tr> <td>12. 成人期(1)</td> <td>27. 発達遅延を伴う疾患</td> </tr> <tr> <td>13. 成人期(2)</td> <td>28. 発達障害(多動性障害・広汎性発達障害)</td> </tr> <tr> <td>14. 発達段階と死の理解</td> <td>29. 発達障害(学習障害・アスペルガー障害)</td> </tr> <tr> <td>15. 中間試験</td> <td>30. 不登校と子どもの虐待・重症心身障害児</td> </tr> </table>			1. 人間発達とは	16. 小児の成長・発育と発達	2. 発達理論(1)	17. 小児の神経系・感覚系・運動系の発達	3. 発達理論(2)	18. 新生児・未熟児疾患	4. 個体と環境	19. 先天異常と遺伝病	5. 出生前発達	20. 神経・筋・骨系疾患	6. 乳児・幼児前期	21. 循環器疾患、呼吸器疾患	7. 幼児後期	22. 感染症	8. 学童期(1)	23. 消化器疾患、内分泌・代謝疾患	9. 学童期(2)	24. 血液疾患、免疫・アレルギー疾患、膠原病	10. 青年期(1)	25. 腎・泌尿器系、生殖器疾患、腫瘍性疾患、心身症、神経症	11. 青年期(2)	26. 眼科・耳鼻科的疾患	12. 成人期(1)	27. 発達遅延を伴う疾患	13. 成人期(2)	28. 発達障害(多動性障害・広汎性発達障害)	14. 発達段階と死の理解	29. 発達障害(学習障害・アスペルガー障害)	15. 中間試験	30. 不登校と子どもの虐待・重症心身障害児
1. 人間発達とは	16. 小児の成長・発育と発達																																
2. 発達理論(1)	17. 小児の神経系・感覚系・運動系の発達																																
3. 発達理論(2)	18. 新生児・未熟児疾患																																
4. 個体と環境	19. 先天異常と遺伝病																																
5. 出生前発達	20. 神経・筋・骨系疾患																																
6. 乳児・幼児前期	21. 循環器疾患、呼吸器疾患																																
7. 幼児後期	22. 感染症																																
8. 学童期(1)	23. 消化器疾患、内分泌・代謝疾患																																
9. 学童期(2)	24. 血液疾患、免疫・アレルギー疾患、膠原病																																
10. 青年期(1)	25. 腎・泌尿器系、生殖器疾患、腫瘍性疾患、心身症、神経症																																
11. 青年期(2)	26. 眼科・耳鼻科的疾患																																
12. 成人期(1)	27. 発達遅延を伴う疾患																																
13. 成人期(2)	28. 発達障害(多動性障害・広汎性発達障害)																																
14. 発達段階と死の理解	29. 発達障害(学習障害・アスペルガー障害)																																
15. 中間試験	30. 不登校と子どもの虐待・重症心身障害児																																
教科書	『写真で見る 乳児の運動発達 生後10日から12ヶ月まで』 【著】Lois Bly (協同医書出版) 『シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト』 【著】田原弘幸・大城昌平 (南江堂)																																
参考書	『生涯人間発達学』【著】上田礼子(三輪書店) 『STEP 小児科』【監修】畑江芳郎 『理学療法・作業療法のための神経生理学プログラム演習2 運動発達と反射 反射検査の手法と評価』 【著】Marylou R. Barnes, Carolyn A. Crutchfield, Carolyn B. Heriza (医歯薬出版)																																
評価方法	出席状況、課題、試験により総合的に評価する。																																
備考																																	

開講年度	令和3年度	開講期間	前期
科目名	義肢・装具学		
担当教員	垣内 昭治		
学年	2年	学科	理学
単位数	1単位	時間数	30時間
学習目標	義肢・装具の種類・構造等の知識を習得し、その目的、機能、適応を理解する。 模擬義手模擬義足の装具体験を通しての異常歩行の理解を深める。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・総論(義肢装具の総論、分類等) 2. 義肢学(下腿義足①) 3. 義肢学(下腿義足②・大腿義足①) 4. 義肢学(大腿義足②・その他の義足) 5. 下肢義足のベンチアライメントDemo.Ex. & Ex. 6. 義肢学(前腕義手) 7. 義肢学(上腕義手、その他の義手) 8. 模擬義足 模擬義手装着体験 9. 模擬義足 模擬義手装着体験 10. 装具学(体幹装具) 11. 装具学(下肢装具①) 12. 装具学(下肢装具②) 13. 装具学(靴形装具) 14. 装具学(上肢装具) 15. 車いす ※①②なし 		
教科書	『義肢装具のチェックポイント第8版』【監修】日本整形外科学会 (医学書院)		
参考書			
評価方法	出欠席・態度及び筆記試験		
備考			

開講年度	令和3年度	開講期間	前期
科目名	物理療法学		
担当教員	植田 一輝		
学年	2年	学科	理学
単位数	1単位	時間数	30時間
学習目標	理学療法における物理療法の位置づけ・分類・生理学的効果を理解する。また、適応と禁忌、治療方法を把握し、適切な臨床判断を行えるように講義を進める。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・物理療法総論 2. 組織の病態理解(炎症と修復・疼痛)① 3. 組織の病態理解(炎症と修復・疼痛)② 4. 温熱療法各論(ホットパック) 5. 温熱療法各論(パラフィン) 6. 寒冷療法 7. 電磁波療法Ⅰ(総論・極超短波・超短波) 8. 電磁波療法Ⅰ(超音波) 9. 電磁波療法Ⅱ(紫外線・赤外線) 10. 電磁波療法Ⅱ(レーザー) 11. 電気療法(疼痛コントロール) 12. 電気療法(神経筋電気刺激) 13. 水治療法 14. 牽引療法 15. 国家試験対策 		
教科書	『物理療法学』【監】千住秀明 【編】沖田実 (神陵文庫)		
参考書	『理学療法士のための物理療法臨床判断ガイドブック』【編】木村貞治 (文光堂) 『物理療法学テキスト(シンプル理学療法学シリーズ)』【著】木村貞治 (南江堂) 等		
評価方法	筆記試験・出席状況		
備考	講義では基礎的な事を中心に教授し、各物理療法機器を実際に体験しながら進行していく予定です。実技が可能な服装で講義に臨むこと。		

開講年度	令和3年度	開講期間	前期
科目名	臨床体験実習		
担当教員	臨床実習指導者 教員		
学年	2年	学科	理学
単位数	1単位	時間数	45時間
学習目標	①医療・福祉の現場体験をする。 ②社会人として基本的な心構えを実施する。 ③病院・施設の他職種・患者(利用者)様とのコミュニケーションを図る。 ④他職種との連携や流れを理解する。 ⑤対象者の病態や障がいを観察する。		
授業計画	・実習期間 (1) 2021年8月23日(月) ～ 2021年8月27日(金) (2) 2021年8月30日(月) ～ 2021年9月3日(金) (3) 2021年9月6日(月) ～ 2021年9月10日(金) のうち5日間 * 上記期間内に、5日間実施(9時間×5日間=45時間) ・報告会(グループ発表) 2021年9月13日(月)(以降実施予定)		
教科書	必要に応じて資料配布		
参考書	実習指導者、教員等に必要な参考書籍、参考文献を確認すること。		
評価方法	座学出席状況、臨床体験実習出席状況、臨床実習指導者の評価、報告会レポート作成、報告会発表態度・内容により評価する。		
備考			